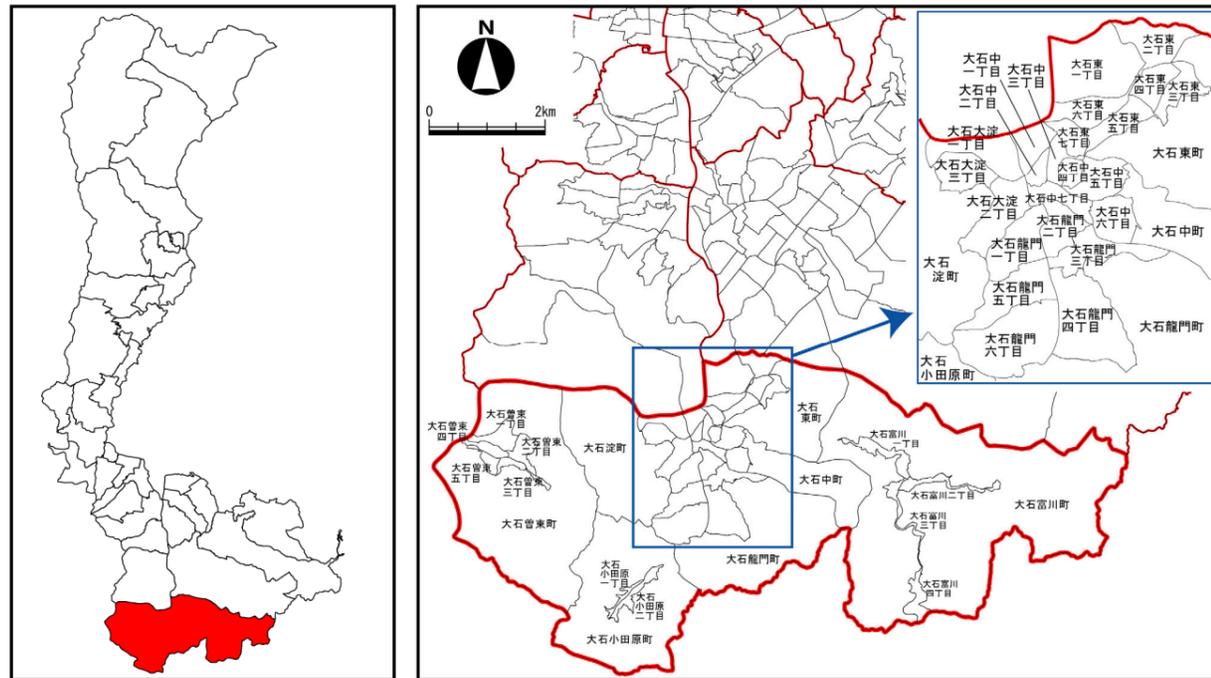


■ 学区の概況



<町丁名>

大石曾東町、大石富川町、大石曾東一丁目、大石曾東二丁目、大石曾東三丁目、大石曾東四丁目、大石曾東五丁目、大石小田原一丁目、大石小田原二丁目、大石龍門一丁目、大石龍門二丁目、大石龍門三丁目、大石龍門四丁目、大石龍門五丁目、大石龍門六丁目、大石淀一丁目、大石淀二丁目、大石淀三丁目、大石中一丁目、大石中二丁目、大石中三丁目、大石中四丁目、大石中五丁目、大石中六丁目、大石中七丁目、大石東一丁目、大石東二丁目、大石東三丁目、大石東四丁目、大石東五丁目、大石東六丁目、大石東七丁目、大石富川一丁目、大石富川二丁目、大石富川三丁目、大石富川四丁目、大石小田原町、大石龍門町、大石淀町、大石中町、大石東町

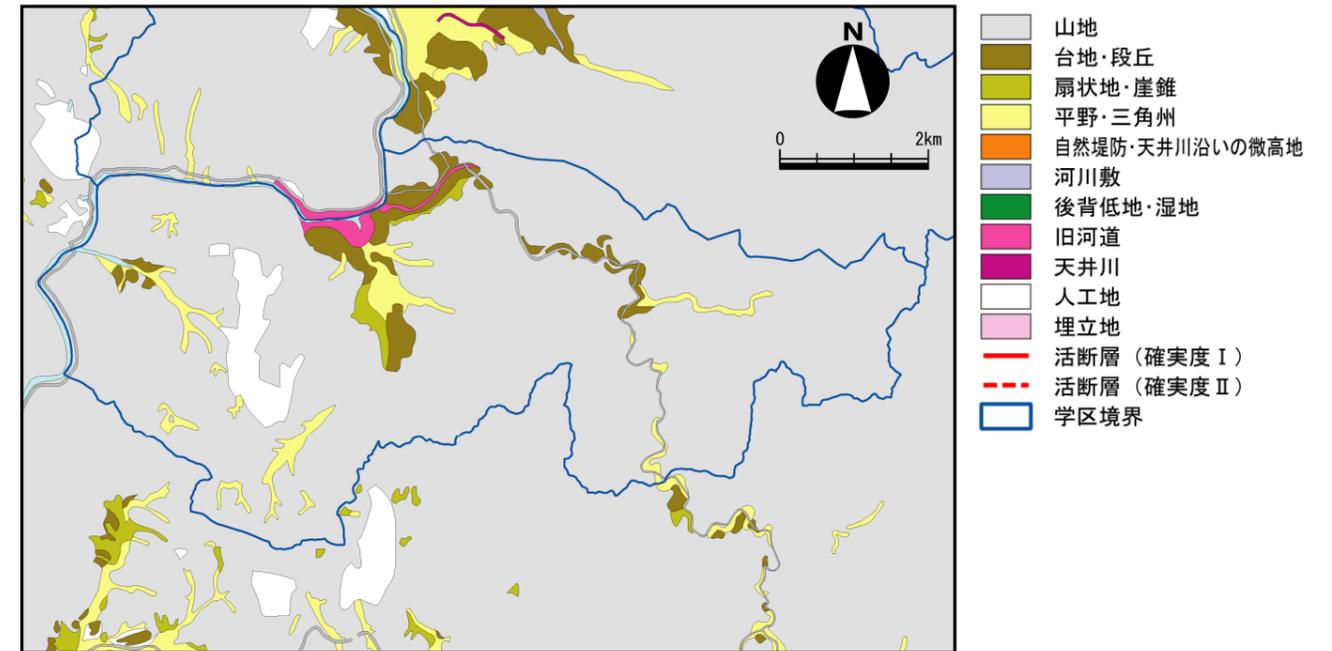
(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

大津市の最南端部に位置し、瀬田川に沿い、山と丘陵に囲まれた地域を大石川と信楽川の清流が流れる、水と緑の自然豊かな景勝の地である。後に赤穂藩家老大石良雄を出す大石氏の本貫地として知られる。

近年、信楽川と瀬田川が合流する地域で大規模な住宅開発が進み、人口が増加してきている。また、天ヶ瀬ダムによる河川敷や地域の自然、歴史環境などを活かして「大石スポーツ公園」や「サイクリングターミナル」が整備され、新たな街づくりが進んでいる。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 大石地域の地形の大部分は山地であり、大石淀や大石富川付近では河川沿いに丘陵・台地や平野などの低地が分布する。
- 大石曾東付近の人工地はゴルフ場である。
- 本学区付近の瀬田川は先行谷を形成している。とくに鹿跳付近では河幅が狭く溪谷（鹿跳溪谷）になっているが、これは周辺の山地が隆起する速さよりも川が谷を削る速が大きく、川の流路が変わらなかったためである。

<地質の特徴>

- この地域の山地は主に丹波帯とよばれる中生代の地層と、田上花崗岩からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 大石淀付近の丘陵は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。大石小田原付近でも第三紀鮮新世の堆積物が分布している。
- 鹿跳付近の瀬田川河床は田上花崗岩が露出した岩盤河床であり、所々にポットホールと呼ばれる丸い穴が空いている。ポットホールは石が穴に入り込み、その石が水流によって回転し岩盤を丸く削り込んで作られたものである。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
大石曾束町	-	-	-	-
大石小田原町	-	-	41.7	100.0
大石龍門町	-	-	100.0	100.0
大石淀町	-	-	37.0	90.0
大石中町	-	-	-	-
大石東町	-	-	-	-
大石富川町	-	-	-	-
大石曾束一丁目	38.0	98.1	88.2	66.7
大石曾束二丁目	35.5	85.3	78.4	68.8
大石曾束三丁目	26.6	93.0	53.3	75.0
大石曾束四丁目	-	-	-	-
大石曾束五丁目	82.3	97.2	75.0	60.0
大石小田原一丁目	33.7	61.0	76.1	77.1
大石小田原二丁目	33.0	92.8	65.1	78.6
大石龍門一丁目	29.6	90.5	77.3	60.3
大石龍門二丁目	29.1	91.6	91.4	53.1
大石龍門三丁目	39.4	90.3	77.6	48.5
大石龍門四丁目	117.9	99.8	52.2	0.0
大石龍門五丁目	36.6	95.4	70.4	31.6
大石龍門六丁目	38.4	98.0	62.9	45.5
大石淀一丁目	32.1	96.5	70.4	10.5
大石淀二丁目	17.6	91.5	73.2	36.7
大石淀三丁目	43.0	90.8	68.9	60.6
大石中一丁目	48.9	95.7	51.0	46.2
大石中二丁目	49.0	74.9	68.9	45.2
大石中三丁目	48.3	78.7	78.2	39.3
大石中四丁目	58.9	51.7	92.1	0.0
大石中五丁目	59.2	67.7	91.4	0.0
大石中六丁目	-	-	7.1	0.0
大石中七丁目	60.4	88.5	86.7	27.7
大石東一丁目	34.8	94.5	77.3	50.6
大石東二丁目	39.5	93.2	72.5	64.0
大石東三丁目	44.9	84.0	65.8	20.0
大石東四丁目	59.9	66.0	73.2	3.8
大石東五丁目	65.8	60.5	78.7	0.0
大石東六丁目	-	-	-	-
大石東七丁目	69.0	98.7	59.3	50.0
大石富川一丁目	24.1	90.9	78.9	60.0
大石富川二丁目	26.7	89.6	68.0	82.4
大石富川三丁目	41.9	92.9	79.6	87.2
大石富川四丁目	20.8	93.2	69.7	82.6
学区平均	45.7	98.7	75.8	30.6
出典	1,2	1,2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は45.7戸/haで市平均(全学区の平均)の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は98.7%で市平均の93.9%を上回り、市内で最も高い。
- 木造率は、大石龍門町が100.0%で最も高く、大石中六丁目7.1%で最も低い。学区平均は75.8%で市平均72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、大石小田原町、大石龍門町が100.0%で最も高く、大石龍門四丁目、大石中四丁目～六丁目、大石東五丁目0.0%で最も低い。学区平均は30.6%で市平均40.3%より低い。

■ 人口の状況

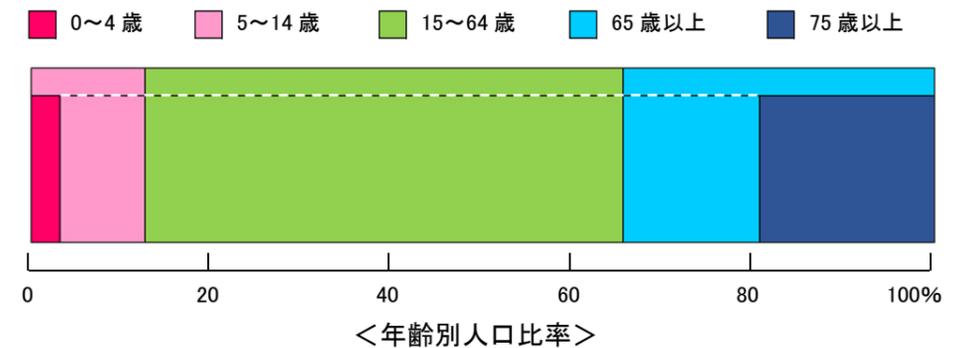
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	4,703	人		-	1
年齢別 (0~4歳)	105	人	学区人口に対する割合	2.2	1
年齢別 (5~14歳)	378	人	学区人口に対する割合	8.0	1
年齢別 (15~64歳)	2,858	人	学区人口に対する割合	60.8	1
年齢別 (65歳以上)	1,362	人	学区人口に対する割合	29.0	1
年齢別 (75歳以上)	595	人	学区人口に対する割合	12.7	1
世帯数	1,971	世帯		-	2
1世帯当たり人口	2.4	人/世帯		-	2
要介護認定者	254	人	学区人口に対する割合	5.4	3
身体障害者 (要配慮者)	68	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者 (要配慮者)	10	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	55	人	学区人口に対する割合	1.2	5

(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30現在)、4: 大津市データ (R4.3.31現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口は学区中部の平野・扇状地・段丘部に集中している。
- 高齢者(65歳以上)は1362人、乳幼児(0~4歳)は105人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ29.0%、2.2%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均(27.2%)より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均(3.9%)より低い。
- 要介護認定者は254人(5.4%)、身体障害者(要配慮者)は68人(1.5%)、知的障害者(要配慮者)は10人(0.2%)である。
- 外国人居住者は55人(1.2%)である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	67 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	101 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	150 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	187 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	18 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） ^(注1)	18 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	1 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	0 m ²	6
(0.5m~1.0m)	0 m ²	6
(1.0m~2.0m)	0 m ²	6
(2.0m~)	0 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	13 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1: 滋賀県砂防課 (R3.7.16) 2: 滋賀県砂防課 (R3.2)
 3: 滋賀県森林保全課 (R3.11) 4: 滋賀県砂防課 (H24.12) 5: 農林振興課、砂防課 (H24.12)
 6: 淀川水系 洪水浸水想定区域図 (想定最大規模) (瀬田川上流: H31.3.19、瀬田川下流: H29.3.21、琵琶湖: H31.3.19、草津川: R1.10.1、大戸川: H31.3.19)
 7: 琵琶湖河川事務所 (R2.6) 8: 大津市産業観光部 (R3.12)

<防災上の特性>

- 大石学区のほとんどのエリアは山地からなり、山地斜面や谷筋の多くが急傾斜地崩壊危険箇所、山地災害危険箇所、土石流危険渓流の影響範囲に指定されている。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 大石富川町は地すべり危険箇所に指定されている。豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があるため警戒が必要である。
- 大石学区内の主要道路は、県道 782 号、主要地方道 3 号、国道 422 号等であるが、これらの道路沿いの多くが上記の自然災害危険箇所に指定されているため、道路が寸断された際の物資の運搬などの対策が必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	大石小学校グラウンド	○	○	○		大石東七丁目 4-1
	大石幼稚園グラウンド	○	○	○		大石中一丁目 5-9
	大石緑地グラウンド	○	○	○		大石淀一丁目
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	大石市民センター	○	○	○		大石中一丁目 7-4
	大石小学校体育館	○	○	○		大石東七丁目 4-1
	大石幼稚園	○	○	○		大石中一丁目 5-9

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※ (福) 印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
大石市民センター	大石中一丁目 7-4	546-1002

<警察 110>

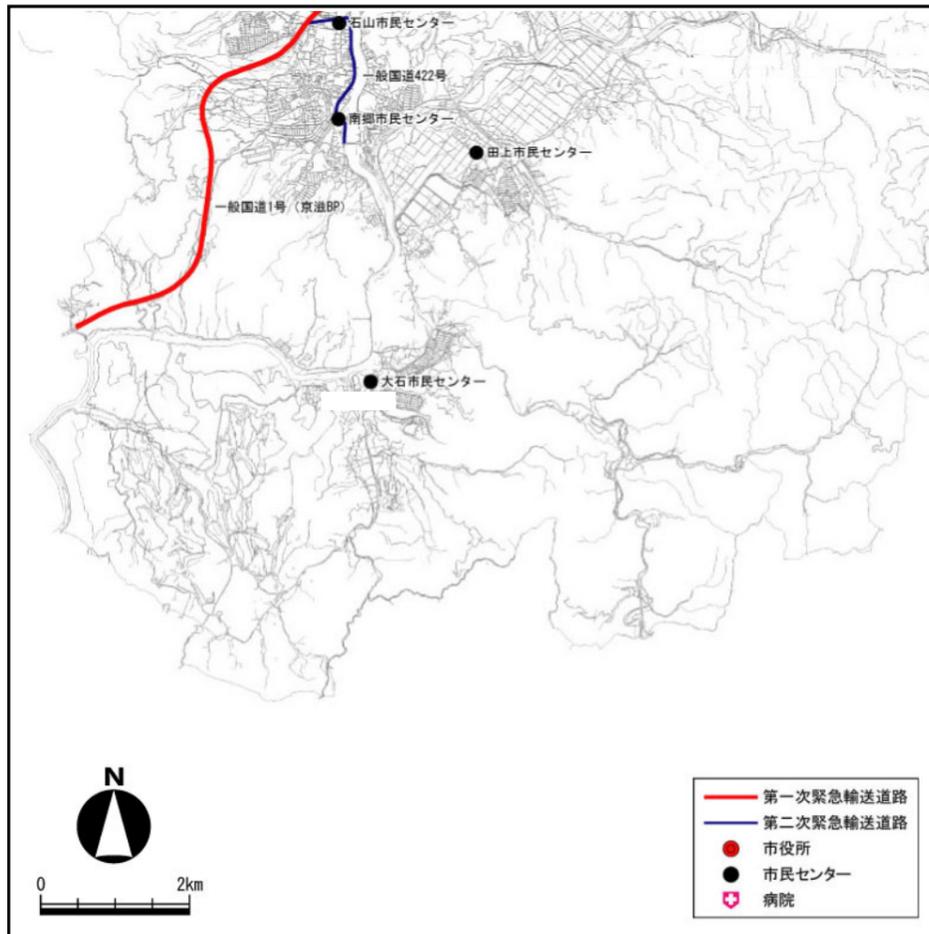
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
大石駐在所	大石中三丁目 1-21	546-0073

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
南消防署	光が丘町 5-7	533-0119
南郷出張所	南郷一丁目 11-1	537-0119
大石分団	大石中一丁目 7-7	546-0507



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害										
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数				
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻		
ケース1	1,878	5,460	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケース2	1,878	5,460	0	6	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
ケース3	1,878	5,460	0	37	19	0	0	0	6	4	4	1	0	0	0	0

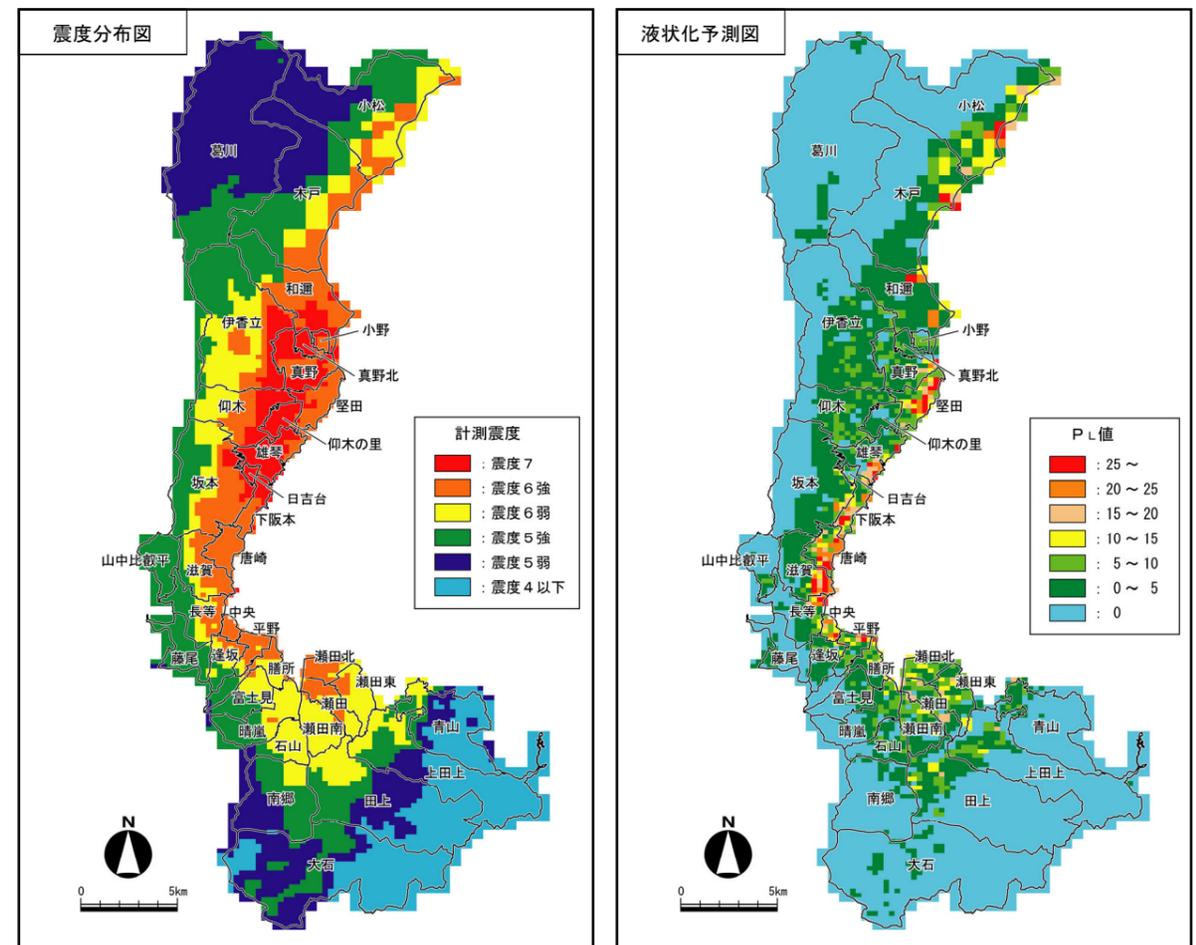
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	0	0	0
ケース2	0	0	0	4
ケース3	0	0	0	28

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(P_L ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
P_L ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

